

【特 1】 温熱健康増進入浴装置 (試作装置)から「近く」本格装置へ

- (① →※国際・国内外特許名称⇒温熱療法入浴装置)
- (② →※国際・国内外特許名称⇒磁化水の製造方法及び装置)
- (③ →※国内特許名称 ⇒曝気装置)

**本装置は、上記3件特許を併体して、
創っています。**

※取り扱い発明所

〒884-0006 宮崎県児湯郡高鍋町大字上江 7675-8

松井エネルギー研究所 ☎0983-22-5805 FX0983-35-3004

Email: info8@matsui-energy.com

【特2】 温浴健康増進入浴装置

※ 予防医学の端緒装置として活用したい

(入浴目標体温→**39.3℃**微土・入浴要領)

I. 説明

◎本装置は、特殊磁石で水を磁化・曝気・気泡化し機能水を造るもので、特許2権（国際出願を含むと3権）を使用した装置であります。

※本装置は「浴用具」で医療器具ではありません。

(特別なお風呂ではなく、浴水を磁化し曝気・気泡した普通のお風呂ですよ。)

II. 概要

「※健康的な舌下温 **39.3℃**を目標とし」入浴を介して健康にチャレンジし、「予防医学」をテーマに「病現の阻止」・「健康の保持」・「健康の回復」を求めます。

III. 使用条件・要領 (※ペースメーカー等の使用者・超高血圧者・他重篤病者は医師に相談のこと)

◎本装置での絶対的条件は、必ず「※アース」(感電防止)を取り、浴湯造り時間帯(45分以上)のみ「電源をON」にし、本装置稼働時浴室への入室(感電防止)には、ゴム靴等を使用し「※それ以外帯は、必ず「電源をOFF」にし、※浴場で保管」して下さい。

◎本装置の使用要領は、下述のとおり。「詳細」は、付録の説明書を参照してください。

◎原則入浴要領は、下記が示す本装置使用基本入浴工程に則った入浴法でお楽しみ下さい。

◎目標・目的のある体温計測希望者は、入浴前30分間飲食は控えてください(※⇒平常体温確認の為)

◎入浴直前に、体温計測希望者は舌下温度(平常体温)を計り、「計った後」に必ず適量の水を飲んでください。他の入浴者も、飲用は同じ(※脱水症の予防)

1.) その後、かけ流しの後は、ご自由に。(※洗体は、体が温まってからでもご自由に)
2.) 洗体が終わったら、入浴は肩まで湯に浸かり、検温実施者は、3～5分後頃から体温計で舌下温度を計ります。
3.) 舌下(目標・目的のある検温者)温度は、当日の目標体温に達するまで、こまめに計測しましょう。
4.) 初日の入浴検温舌下温度は概ね37.5度±、2日目度37.5±、3日目も37.5度±、「3～4日目(前該浴日終了時刻から必ず48時間経過が絶対条件)」は、「**39.3±℃**」の入浴法を「繰り返えし(目標・目的のある検温者)続行」して下さい。(高温反復入浴を推奨。但し無理は禁物)
5.) 入浴中の洗体等は、ご自由にどうぞ。但し湯当たりはしないよう注意のこと。

6.) お風呂から上がったら水分を多めに補給して下さい。(※脱水症の予防)
7.) 入浴後は、リラックス時間帯を設けてください

IV. 注意事項を

1. 本入浴の舌下温度検温者は、 $39.3\pm^{\circ}\text{C}$ を原則とし「3～4日置き」に繰り返す。
2. 原則；1人での入浴は厳禁とし、家族や補助者に入浴の旨を告げて、本入浴を実施して下さい。
3. 体調が悪いときには、本入浴は避け下さい。
4. 食後の入浴は、時間差を考慮のこと。
5. 入浴時間は体調での「応分浴」にして下さい。
6. 冬季の浴室及び脱衣場の室温は、適温を確保して下さい。
7. 出浴後、急激に体温を下げないことが肝要。(ヒートショックの予防)
8. 本装置浴は、「自己責任」において入浴して下さい。
9. 「本装置浴を介しての③自由入浴」には、下記の行程表は例外です。が、本行程表の入浴法を実践しても、何ら問題ありません。どうぞご自由に

本装置使用基本入浴行程表(基本原則)

日 程	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目
湯 温	41℃	41℃	41℃	43℃以上	41℃	41℃	41℃	43℃以上
舌下温度	37.5℃	37.5℃	38℃	39.3℃	37.5℃	37.5℃	38℃	39.3℃

※上記；舌下温度を上限とします。*上記は(1行程=4日間)1巡は7行程が原則です。
 ※行程は、初日から4日目を1行程とし、7行程の28日目を「基本1巡」とします。

本装置使用厳格入浴工程表(※主要：厳格原則)

日 程	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目
湯 温	前段入浴日1 41℃	前段入浴日2 41℃	本浴日3日目 43℃	前段入浴日4 41℃	前段入浴日5 41℃	本浴日6日目 43℃	前段入浴日7 41.5℃	前段入浴日8 41.5℃
舌下温度	37.5℃	37.5℃	39.3℃	37.5℃	37.5℃	39.3℃	37.5℃	37.5℃

※上記；舌下温度を上限とします。

※目標・目的を持った入浴者は⇒1行程=3日間⇒この場合の1巡は10行程の30日間となる。

※熱ショックタンパク機能⇒とは39.3℃確保日は、必ず行程始日から、「48時間以上(2日間隔)」の間隔を空けることに意味がある。3日間隔でも、特に問題は生じませんが、「2日間隔」入浴実践者は、「前回(39.3℃確保日)入浴終了後から、※48時間経過」の間隔を確実に空けることを認識してください。

※上記をご理解のこと。

(他腫瘍崩壊症候群の認識を；※39.3℃確保後は、特に水の補給は大事。

【特3】民間療法（お風呂の温湯）で「難病の予防と再発」に挑戦しよう

温浴健康増進入浴装置（特許取得）

※ 近年中健康増進機器認定の申請が出来れば、する予定です。

（※（本器具装置は医療器具ではありません。））

- ◎ 本器具装置は「国際（PCT）特許出願物件」と「日本国特許番号第 6206685 号・同国特許番号第 6762467 号」を合体して創作した「お風呂専用」の器具装置であります。
- ◎ 本器具装置の特徴は、「特殊磁石で磁化水を造り、同水を曝気・気泡化して「機能水」を創ることにあります。
- ◎ 目的の主旨 1 は、入浴を介して免疫の活性を希求した「病現の阻止」にある。（予防医学）
- ◎ 目的の主旨 2 は、人体の体温を、入浴を介して「※健康的に体温を一時上昇させ

3～4 日間隔を置き、健康舌下温；39.3℃±を体得し、

免疫力のアップを希求し；疾病あらば、果敢に挑戦し⇒39.3℃±（3～4 日毎に 1 回）の予防医学的入浴を実践することにより、健康を回復させること、更に低体温者の「健康維持基礎体温」（36℃台）を復活させることにあります。

※ところで、人体に磁場を加えると水素原子の原子核に磁気共鳴が生じて、エネルギー状態に変化（励起）が起きるそうだ。その他の特長として、その実影（MRI）を画像化し、がんの細胞を解析すると、ガンの主域はなぜか水の分子を取り込み、水っぽくなっているそうだ。小生は、この「水っぽく」をヒントとして標題を解決するチャレンジャーとして取り組んでいく。

※お風呂に入っただけの挑戦です。→（免疫力を上げて難病に→チャレン、ジーチャレンジ）

◎本装置の活用は、ここ 6 年余りの検証ではありますが、驚愕に値する良き結果が齎されております。

記

（本述前段は自答自問類似系式）

一般的に人間様病気になるると発熱が誘発され、そして免疫機能（抗体）が昂揚する事で、当該病気を撃退するという機能が私達には、功にも備わされている。（※一般的な疾病を指す。）

*とは言うものの、

ある日のこと、本人の許しも請わずに無断で静かに潜入し、悟られることもなく、時を経て突然発症する恐持てのエイリアン的な悪魔がいる。

***だが、**

よくよく考えてみると、この種の病気は物も言わずに静かに人様の身体に無断で潜行することから、日常帯では誰もが気付きもせず自由奔放に自分自身の肉体に共棲共存させてしまい、ある日のこと発病者は発病したことに驚愕して、そして当該病気に強制撤去を命じようにも、相手は発症部に永住する権利を主張し、居座ろうとするとの押し問答。

***どうしたものかと熟慮した結果、**

お医者さまの、「外科療法・化学療法・放射線治療の三大療法のほか、免疫療法・温熱療法・温熱化学療法」・<民間療法>・<自然療法等>を求め、当該患者は前記其々の療法を選択し病魔退治へと挑んでいくことでしょう。

そんなことから、インターネットを覗くと、この種の病は、特に熱に弱く、細胞そのものは体温が39℃以上になると衰退し、**※42.5℃以上の熱には、「耐え難い（腫瘍崩壊症候群を認識のこと）」との論説が列記**されていることから、同熱を発病部位のみに供給し確保することが、**民間療法・自然療法**で安全に出来れば**「悪性腫瘍」という病の一部には、勝ちうるのではないかとの素人的な判断に達したものの、**

*** 敵はそんな生易しいものではない。**

*** 悪性腫瘍とは「何者」ぞ。（簡易説明↓）**

- ・それは、細胞が異常に増殖してできたものを、「腫瘍」
- ・同個所のみで大きくなるものは、一般的には、「良性」
- ・他の組織の中まで進入し転移していくものが、「悪性」

なんだそうだ。

そんな**悪性**をどうやって退治するか思案して、試案するが為には、前述のとおり、腫瘍等に関する知識の糧を知得する手段としてインターネット等の医療文献等を、それなりに細見読したところ、当該の「**悪性**」は、熱に弱いとの記述が多く、医療用語ではハイパーサーミア（温熱療法）と言う名称だそうで、ガン治療装置として医療の現場で、保険の対象療法と認定され、取り入れられているそうだ。他保険対象外治療で、温熱化学療法（抗がん剤を43℃前後温める）もあるそう。

ところで資格もない素人の小生等が、人間様の体温上昇にチャレンジするには、まず何を如何して・如何したら・如何なるかの、「**それも医師法・薬事関連法律等**」に抵触しない「**民間療法・自然療法的方程式**」での顕索をしたところ、すると素直に「**日本古来のお風呂だよ**」との自問自答がなされた。

***だが：んんん……**

それも39℃以上の高熱を健康体で確保するには、「**いゝ÷そうだ＝感歎じゃん（こは秘隠：酸・水・活だよ？）**」

***さて酸化と還元を基盤に検想したところ**

酸化と**言えば＝物質に酸素が化合し、電子を失う化学反応であり、身体で言えば老化や様々な病気の原因となっている要素でもあります。**

還元と**言えば＝酸化の反対で、身体で言えば細胞が電子を受け取り活性化し元気に**

なることで、要は、必要水素を失わないことです。

(目印) ※因みに弊社機器、「磁化水を介した・曝気気泡装置」は、磁気帯で水を磁化し、磁化した水を曝気気泡化して溶存酸素予備群 (※弊社では微視化酸素ガスと命名) と溶存水素予備群 (※弊社では微視細々化水素ガスと命名) を造水し、飲用水としては当然のこと、ほか浴用水として活用したところ、易とも簡単な水創り手法で合目的的とするところが達成できました。

*本当かよ

インターネット：松井エネルギー研究所 <※磁化水・波動水→曝気・気泡水生成水装置群欄をクリック> のホームページを参照して下さい。

(微視化酸素ガス・微視細々化水素ガスとは、空気と水に磁気帯を附与し磁化水を創り曝気して気泡化する事で、微細な状態で同前記 2 素ガスを発生させる事により、水中内で同 2 素ガス気泡帯の浮力が同混となり、同ガスが水の中に浮遊溶存することから、何らかの形で身体に好適な作用を呈しているものと推測している。)

◎ところで酸素水とは何ぞや

別名：高濃度酸素水と呼ばれ通常の水より多くの酸素を溶かし込んだ水のこと、日本では 2000 年代前半まで大きな話題となっていたそうです。

一般的な水にも酸素は、9.3mg 前後は含まれているそうですが、酸素水の場合、その数倍以上の酸素を溶存させるそうです。

※ 酸素水に期待されている効果については、

- 1、血行促進と代謝の向上
- 2、デトックス効果
- 3、疲労回復
- 4、集中力の向上<1、2、3、4>だったそうですが、

● 現在酸素水の研究は、効能効果の面(?)で下火になっているそうです。

◎ここで酸素について簡単に触れて見ると人間様が生きていく手段として切っても切れない主体であります。

呼吸として取り込んだ酸素のうちの約 2% が科学的に活性し、強い酸化力を示す活性酸素を発生させるそうです。

◎活性酸素には、善玉活性酸素と悪玉活性酸素の 2 種があるそうで、

* そのうちの善玉活性酸素 (スーパーオキシド等) は、高い反応性により外部から入り込んだ細菌・微生物・カビ等を殺菌・除去する機能を持ち、且つ神経伝達や免疫力の向上、血管を新生する等して、命の維持に必要なものだそうです。

* 他方の悪玉活性酸素 (ヒドロキシルラジカル等) は、強い酸化力を持ち細胞に損傷を与え、老化やいろんな病気の原因になることから、悪玉活性酸素をいかに除去消滅させるかがキーポイントとなっているそうです。

それを解決する手段として今「水素」の度合いが高まっているそうです。と言うのも、これら善玉・悪玉の活性酸素には、質性の違いがあり、その違いが水素反応に関係してくるそうです。善玉活性酸素は、水素と同じ「球体」同士で反応せず、一方の悪玉活性酸素は、「ギザギザ」していることから、吸着力が強くと水素と反応し、無害な水に変わり汗や尿として排泄されるそうです。

水素が他の抗酸化物質と最も違うところは、善玉活性酸素と反応せず、悪玉活

性酸素のみと反応して水に変わり、必要量のみ消化し、余分量は体外へと通り抜けてしまう特性を持っているそうです。

● ※因みに水素は、厚生労働省から、食品添加物として認められているそうです。

◎水素水とは何ぞや

：簡単に言ってしまうと、水素分子ガスを溶解させた水のことであって、現今では、人間の細胞組織を劣化させる悪玉活性酸素（ヒドロキシラジカル）を抑制する効果が期待され、多くの臨床研究においても有意な結果が示されているそうです。

※ 水素水に期待される効果についての、文献等では、

1、便秘解消を始めとする整腸効果

2、疲労回復の緩和

3、血管内皮機能の向上

4、体内活性酸素の抑制

5、Ⅱ型糖尿病の改善

※ 人間の体内のPHバランスは、酸性に傾くほど身体に不調をきたしやすいといわれております。

水素水は、酸化の元である活性（悪玉）酸素中の「ヒドロキシラジカル」を抑制する効果が臨床で示され、

以下は、二重盲検法によって、得られた臨床試験結果の一部だそうだ。

※（二重盲検法では、プラセボ効果や観察者のバイアスを防ぐ事が出来るので、有意な実験効果が得られるそうです。）

1、リュウマチや関節炎の改善

2、血管内皮機能の向上

3、悪玉コレステロール（LDL）の低下

4、Ⅱ型糖尿病の病状の改善

5、運動後の疲労感の軽減

6、睡眠の質の向上

7、パーキン病の病状改善

※ 上記はNCBI臨床試験内容一覧とテキストフルバージョンで詳細が掲載されているそうです。

◎血液とは

動物の体内を循環する体液で、体重の11分の1～14分の1を占め、比重は1.05～1.06で、水分率は約80パーセントといわれています。

脊椎動物の場合、無形成分は→血漿、有形成分は→血液又は血液細胞（赤血球・白血球・血小板）

赤色は、赤血球に含まれるヘモグロビンで心臓を中心に絶えず流動（血液の循環）し体の各部に酸素や栄養を補給し、且つ体の各部にできた老廃物を運び出す役割を持ち*「体温」の調整も行っているそうだ。

又血液中には、免疫物質もあり白血球は体内の細菌や毒物を摂取して無害化する機能を持っているとのこと。そして、

赤血球の寿命は、凡そ 120 日前後、白血球・血小板の寿命は、数日といわれている。
※血液成分の中には、プラスイオンとマイナスイオンに電離するものが含まれており、それが血管中を巡るということは、電流が流れることに等しい。そこで、血液に磁石で磁場を加えると「フレミングの左手の法則」によりエネルギーが発生する。この力が血液の流れをよくすると考えられているそうです。小生、本事案も標題解決のヒントにしたい。

◎リンパ系とは何ぞた

リンパ管・リンパ節・脾臓・胸腺・ファブリキウス囊等のリンパ器官の総称であり、

リンパ管は、リンパが流れる脈管で、静脈に似ており、静脈と同一方向へ流れるとのこと。

リンパ節は、リンパ管の所々に存在する球状又は、大豆状の膨らみとのこと。

脾臓は、リンパ系器官で、赤血球の貯蔵や血小板の破壊やリンパ球の産生などを行うそう。

胸腺は、リンパ組織の一つで、リンパ球の分化増殖に関与しここで生成されたリンパ球を T 細胞と言い免疫機能の中核的役割を担う。

※弊社開発のお風呂に入って体温を上げ免疫機能を活性化しよう。

◎NK（ナチュラルキラー）細胞とは何ぞや

自然免疫の主要因子として働く細胞傷害性リンパ球の一種だそうで、特に腫瘍細胞やウイルス感染細胞の拒絶に重要で、細胞を殺すのに T 細胞とは異なり事前に「感作」させておく必要がないことから、生まれつきの細胞傷害性細胞という意味で名づけられたそう。

形態的特徴から大型顆粒リンパ球とも呼ばれるそうで、

特徴として

NK 細胞は、大型顆粒細胞であり通常人では、CD16 (FcγR111) と CD56 という表面マーカーを発現しているそう。

それに、この NK 細胞は定常状態でも、活性化した細胞傷害性リンパ球として特徴的な形態をしており、新たなタンパク質の合成や再構成をほとんどせず、そのまま細胞を傷害し、それも迅速に応答できるそうです。

※平熱の低い方は、弊社が開発したお風呂装置を活用し「基礎体温」を上げ、「免疫力」を向上させようではありませんか。

◎マクロファージとは何ぞや

マクロファージとは、白血球の一種で、生体内をアメーバ様運動する遊走性の食細胞で、死んだ細胞やその破片、体内に生じた変性物質や侵入した細菌などの異物を捕食して掃除屋の役割を果たしているような。

動物が病原体による感染から身を守る感染防護の機構において、その初期段階での殺菌を行うとともに、抗原提示によって抗体の産生を行う為の最初のシグナルとして働くなど、重要な恒常性維持機構の一角を担っているとのこと。

→某研究所は、免疫を担う細胞「マクロファージ」が体温で活発になる仕組みを解明⇒過酸化水素によって温度センサーTRPM2（トリップ・エム2）がスイッチ・オンになる分子メカニズムを解読とのこと。

途轍もない世紀の大発見であり、今後トリップ・エム2の関連解読が進み、当該疾病新薬が解発されるでしょうが、

小生等は、新発見である天為の世界に、先立って健康体で体温域から発熱域の体温を人為に操作する技術を創出させ、且つその際、人体全ての細胞を傷つけることなく免疫機能を昂揚させるかにあったが、小生等は、その方法をお風呂で解決させた。

※マクロファージの活性体温は「38℃」だそうですから、弊社が開発した各型のお風呂装置を活用し、同体温を獲得し「免疫力」を向上させようではありませんか。

◎ミトコンドリアとは何ぞや

真核生物の細胞小器官であり、二重の生体膜からなり、独自のDNA（ミトコンドリアDNA＝mtDNA）を持ち、分裂、増殖する。

ミトコンドリアは、生命の「発電所」と表現されている。

生体細胞に備わり生きるのに必要な、ほぼ全てのエネルギーを生み出している。

一個の細胞に数百から数千個備わり酸素を使って栄養物を燃やしているとのこと。サイズは、非常に小さくゴマ粒ぐらいの大きさに数億個は入っているような。

働きは、エネルギーを産生する。所謂主要な機能は、電子伝達系による酸化リン酸化によるATPの産生（ADPのリン酸化）である。

細胞のさまざまな活動に必要なエネルギーのほとんどは、直接、あるいは間接的にミトコンドリアからATPの形で供給される。ATP（アデノシン三リン酸）を合成する源は、食事→栄養素（脂質・糖質・タンパク質：3大栄養素）+呼吸⇒（酸素・窒素）。

※平熱の低い方は、弊社が開発したお各型のお風呂装置を活用し「基礎体温」を上げ、「免疫力」を向上させようではありませんか

◎熱ショックタンパク質とは何ぞや

熱ショックタンパク質熱（ヒートショック プロテイン<HSP）とは細胞が、熱などのストレスに曝された際に、発現が上昇して細胞を保護するタンパク質の一群だそうだ。

別名：ストレスタンパク質とも呼ばれているとのこと。

HSPは、分子量により其々の分子の名前がつけられており、例えばHSP 60・70・90 KDa 等々のタンパク質だそうだ。

HSPの発現は、細菌感染・炎症・細胞に対する様々なストレスや活性酸素・紫外線などにより誘導されることで知られているそうだ。

従って、われわれが主催する主体入浴の入浴手法としては、いかにHSP発現の時系帯を推測し、その時空に実演するかによって真価が決まるものと思料する。（72H）

※弊社が開発したお風呂装置を活用し②入浴法で「免疫力」を向上させようではありませんか。

◎がん細胞が嫌う食べ物を抜粋（下記）

酢・ハトムギ・キャベツ・きのこ類・R-1ヨーグルト・アボカド・お茶・コーヒー・にんにく・海藻類・ブロッコリー・にがうり・ココナツオイル・レバー・鮎・ごま・玄米・人参・白菜・大根・だいず。・枝豆・トマト・なす・柑橘類・ベリー類・きくらげ・香辛料等々だそうです。

@※お風呂に入って体温を上げ抗体源や細胞帯を活性化し、病気の元となる諸悪抗原諸々菌等を排除し健康を勝ち取ろうではありませんか。

松井エネルギー研究所*特許風呂開発者 松井嗣光

【4】 基本温熱健康増進入浴装置 > 特許取得

※ 予防医学の端緒装置として活用したい

- 1) 磁化水生成器×2 (本装置×1・別途⇒飲用×1)
- 2) 空気曝気水生成器
- 3) 気泡水発生器
- 4) 市販「水中」ポンプ (50ℓ〜260ℓ)
- 5) 市販「揚水」ポンプ (0.5キロℓ〜5キロℓ)

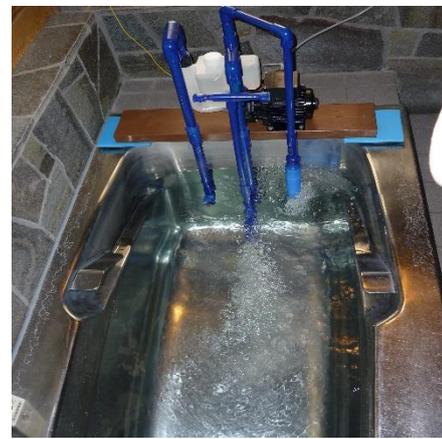
上記1)・2)・3)・4)・5))を介して磁石→で磁気帯を造り且つ、その水を磁化し、更に曝気・気泡化の創作行程を加え「機能水」を創り、お風呂の「浴湯」として活用し、一般家庭で実演する状景を下記写真で公開しました。

※下写真は、標記装置を介し、磁石から、磁化水を造水し該水を曝気気泡化した情景です。

①型↓；②イ移動型



②型↓；②ロ固定型



基本的な入浴法

(※心臓ペースメーカー等を使用している方・重篤病者は、本装置入浴は、医師にご相談のこと。)

※学習入浴方法は→2〜3日間隔 (；あくまで原則)

(浴槽内温度は⇒：41℃前後)

(舌下 温度は⇒：下限平熱以上〜上限38℃以下)

※主体入浴方法は→3〜4日置きに1回 (学習入浴終了後；あくまで原則)

(浴槽内温度⇒下限43℃以上〜上限45.7℃以下)

(舌下 温度⇒あくまで目標※下限39.3℃以上〜上限40℃以下)

※一般入浴方法は→可能な限り (出来ることなら日々)

(浴槽内温度は⇒：41℃〜45.7℃以下)

(舌下 温度は⇒：平熱以上の自由入浴)

※足浴 方法は→思い立った時 (本装置での足浴を求める方々)

(足浴槽内温度は⇒：上限45.7℃以下)

(舌下 温度 は⇒：平熱以上の自由入浴)

※上記で「※主要入浴」を目的とするならば、※「ヒートショックプロティーン」を念頭に

※「他腫瘍崩壊症候群の認識を」

*** このページと次ページは、念入り朗読のこと**

※本装置「開発の端緒・根拠」となる

私案と「試案・発明」に対応する簡単な説明

目印1 ※本浴槽装置を介して入浴の主目的とする機能的な役割は、人間様の「体温調節」の操作と「正常細胞を保護し、異常細胞のみを攻撃する」にある。

※体温調節作用は、視床下部の最吻側に位置する視索前野領域にあり、又感染時の発熱を指令する中枢でもある。

※「体温調節作用の種類」は、大まかに、①自立性体温調節作用、②熱産生作用、③熱放散作用、④行動性体温調節作用等などの諸々で、それらの複雑神経経路領域に「介入」し、「正常体温」から「正異常状態体温」を醸し出し、その後「復活正常体温」へと、人体体温の回路を健康的に創作することにあります。

※体温調節作用とは、人間の意志ではコントロールできない神経部を指し、人間様の健康体温回路の調整役を担っている機能領域（聖域）だそうです。

※そんな聖域にチャレンジし、不可能を可能とする技巧を確立すべく、そして人間様の健康に寄与できれば幸いと奮い立ち、本浴槽装置を試案し考案しました。

※ところで個人の発熱の基準は、一概にはないようで、そのため自分の平熱より高ければ発熱だそうです。

※医療法上の感染症法では、「37.5℃」以上を発熱、「38℃」以上を高熱と分類しているそうです。

※さて、風邪等（ウイルス）などの発熱でリンパ球が減って免疫力が低下すると、体温を上げてリンパ球を増やし、病原菌と戦おうとするのが「発熱のメカニズム」だそうです。

※「発熱」には、免疫力が働いている証拠と言われています。

※一般的に39℃以上の発熱は、人体にとっては異常体温状態だそうです。

M そんな異常体温状態（舌下温；39.3℃±）を「正常な健康状態として維持」ということは、至難の技法であることとは認識しつつも、本浴槽装置を介しての「入浴挑戦」を試みたところ、検証実演で意外な結果が査証でき、本発明考案の目的とするところを、実現し立証することができました。

※さて

◎目印2 (*) 45℃の高温入浴で身体（正常細胞）を障害することなく、不可能を可能とする入浴方法の秘策を考案開拓し「不感温度帯作用」（温度を少し低く感じる体感温度）を獲得せねば本計画の実現は、不可能であることから英知を込めた決断の結果は、磁化水を介した曝気・気泡生成水（機能水）の物理的な作用に期待を込めたものにするしかなかった。

※一般的に日本人的入浴の主旨の本態は、癒しであり、お風呂を熱く感じる、

又は冷たく感じる浴温は、自律神経経路が躁る癒しの観点から外れることで⇒「不感温度帯作用」は、「高温癒し入浴」を獲得するための絶体条件となる。

その為には、自律神経経路帯に作用される交感神経と副交感神経の拮抗が求められる。

(*) 又ここでいう前記「不感温度帯作用」の効能は、(神意?)は⇒「酸素ガス」・「水素ガス」・「窒素ガス」が関与しているのではないかと考察する。

(*)そして体験を得た実演査証からの経緯からして「安全の度合い」を研模索したところ、究極結論として「人体体温を40.4℃まで」を「上限；舌下温度」としても、何ら身体体調の「異変」は認められないことが判明、且つその後の体調も頗る良いとのこと。又、ある某氏は、連日の入浴で、39.3℃前後の舌下体温を継続しており、かつてないほどの健康を維持しているとのことでした。

◎ 取り分け動物は、病気を発症すると発熱という抵抗(部分)を伴い、その発熱の因果は、病魔と戦い病源を撃退しながら、生命活動を維持持続し、健康の根拠を成立させている。

◎目印3 例えば、前述のとおり、インフルエンザにかかって体温39±度(病

気に対抗する熱)の高熱を発症し、快気までに身体を浄化(免疫の活性)し、健康を回復してくれるという解釈が成り立つものならば、「体温の上昇作用」

(身体の正常細胞を傷つけることなく)で、※「熱の先取」が出来れば、ある種の病気は衰退若しくは、「消滅」するのではないかと言う「因果」も成り立つ。

あるネット上の医療関係誌には、癌の細胞は人間の体温が35度で一番増殖し、他方39℃以上になると衰退、そして42.5℃以上になると死滅するとの論説があり、また基礎体温が「1度下がると、免疫力が、30パーセント下がり」、「一方体温が1度上がると、白血球もよく働き免疫力が5~6倍も上がる」という論説もありました。

そのことから、本計画立案は生命維持活動の「健康自然体温を調整制御する神経指令回路部」の流れに逆らい、健康基礎体温(低体温者含む)を突然無視し体温を維持・調節するために機能する、「温度知覚情報の伝達・統合部が支配する神経機能部」に無断侵入し、正異状態体温「学習入浴(舌下体温)⇒平熱以上38℃以下」、「本体入浴(舌下体温)⇒39.3℃±を数分間」、次に「一般・足浴入浴は、(舌下体温)⇒平熱以上39.3℃以下」を人体に演出させる異常行為であり、神の領域を侵犯することになり、この現実を無視していいものかと自問自答してみたところ、

答 え は

お風呂（足浴含む）を介しての「予防医学」への挑戦であれば認可とのこと。

それも条件付きで、「それは」※人体「60兆個（37兆個とも）の正常細胞」を「傷つけることなく」「※病魔病源体のみ」を撃退できればとの、きついお墨付きでありました！

※予防医学を主体とした過去にチャレンジした疾病



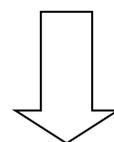
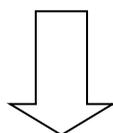
※◎（悪性腫瘍・良性腫瘍・糖尿病・クローン病＝潰瘍性大腸炎・アトピー性疾患・リュウマチ・膠原病・パーキンソン病・ヘルペス・肝炎⇒B,C型・肝機能異常・高血圧症・便秘・白ろう病・透析・ALSの改善等々）

※クロウ・深瀬症候群チャレンジ中（2024/12/31 現在）

※ ⇒発症・再発予防にチャレンジ・チャレンジ

※世の大衆様の健康（維持と回復）を切に願うものとして

松井エネルギー研究所



※【5】 ①・温熱健康増進**厳格**入浴法

特許取得（国際・PCT 出願；数カ国特許取得済み）

※ **予防医学**の端緒装置として活用したい

【本装置は浴用具で医療器具ではありません】

本装置の機能

<移動式>

本装置の「特徴」は、特殊磁石で水を磁化し、その水を曝気・気泡化して

「機能水」(生成水)

を創ることにあります。

※**厳格**(主要)入浴法→目標・目的 **** (高温反復↓入浴を推奨)**

※人体の体温を、入浴を介して**健康的**に一時上昇 (**39.3℃舌下温**) させ、

①「**病現の阻止**」を主体に、②「**難病**」に挑戦すること、③健康を「**増進**」する

こと、且つ④「**低体温者**」の健康基礎体温 (**36℃台**) を獲得することにあります。

実施方法として

(※先取り予防医学的な見地から)

1、「**目標・目的**」を持った浴槽入浴方法 (活用・使用条件は次ページから)

(※1日目～2・3日目は、41℃±での湯温入浴で、3日、4日後には43℃～45℃以下の湯温を確保した入浴で、体温の一時上昇 (舌下温；39.3℃以上) を獲得することを目標とし、以後**3日間隔**→(1工程30日間)又は**4日間隔**→(1工程28日間)での、継続続行を原則としていますが、出来る範囲内で良いと思います。

※1型⇒

移動用装置



松井エネルギー研究所；本装置開発所

宮崎県児湯郡高鍋町大字上江7675-4

電話 0983-22-5805

FAX 0983-22-3005

※【5】 ② 「**厳格**（目標・目的）入浴」活用方法

使用条件及び取り扱い説明書

（※本装置使用時には必ず**アース線**を取って下さい）

（※**体温計は自己準備のこと**）

この磁化水・曝気気泡化風呂装置を利用するに際し、下記の事を遵守してください。

（*水に**磁気**と**空気**を混入させ**泡**を発生させ活用する単純なお風呂です。）

浴槽入浴心得

（*心臓ペースメーカー等の使用者・重篤病者の本浴は、お医者様に相談してください。）

前入浴日後⇒本浴日は、3～4日置きに実施のこと（※目標・目的を持った入浴は、39.3℃の舌下温獲得努力及びヒートショックプロテインを念頭に；他腫瘍崩壊症候群の認識も）

本装置使用**主要（厳格）入浴工程表**（※あくまで厳格原則）

日程	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目
湯温	前段入浴日1 41℃	前段入浴日2 41℃	本浴日3日目 43℃	前段入浴日4 41℃	前段入浴日5 41℃	本浴日6日目 43℃	前段入浴日7 41.5℃	前段入浴日8 41.5℃
舌下温度	37.5℃	37.5℃	39.3℃	37.5℃	37.5℃	39.3℃	37.5℃	37.5℃

※目標・目的を持った入浴者は⇒1行程＝3日間⇒この場合の1巡は10行程の30日間となる

⇒（※日程の不都合は「+」日延長も可）

※上記表は、主要（厳格）「**検温入浴希望者**」の入浴法です。

※更に、「**目標・目的**」を持った**検温入浴希望者**は**厳格な48時間以上経過入浴法**厳守。

※本入浴は、何回繰り返せば良いかとの問いに⇒回答は下記※⑩※で

- 1、本装置は、浴槽入浴で中核温（人体；舌下温）を、一時的に上げることを目的としていることから、→（ここは個別目標入浴編）⇒（大・中・一般家庭浴は⇒**別途指導**）
- 2、まずは浴槽にお湯（前段日：浴槽温度41℃前後；本浴日：浴槽温度43℃超）を入れながら、適量水が溜まったら、本装置を浴槽内に本装置を仮設し、そして「**アース線**」を必ず設置し電源を差し込み、お湯が溜まったらスイッチをONにし、稼働させます。（※浴槽の大きさにもよりますが、原則「**45分以上**」水を磁化・曝気・気泡化します）←個別風呂
- 3、完結後電源をOFFにし外し、本装置を浴槽から取り出し、入浴となりますが、入浴前に**舌下温度**（平熱体温確保の為⇒入浴前30分間は、冷・熱物は口にしないこと。）**を計り**、「計った後」に適量の水を補給（脱水症防止の為）すること。※体温計は個人準
- 4、その後洗体から浸浴へ。（※浴槽内の**目的湯温は、其々確保の事。**）
- 5、浸浴体位は肩まで湯に浸かり5分後ころから体温計で舌下温度を計り始める。
- 6、舌下温度は、前段入浴日は**37.5℃乃至38.5℃以下**、本浴日は**39.3℃±**を基盤とし、其々目的体温を確認したら出浴です。（ここで洗体も可）体力のある方は、身体を

- 自然体で冷やし、**当日の上限温度**に再チャレンジするのも選択肢としてあります。
- 7, お風呂から上がったら、**より以上の水を補給**して下さい。(脱水症予防のため)
 - 8, 出浴後は、性急に身体を冷やす(ヒートショックに起因する危険性)ことなく、適宜休息するなどの時間帯を設け、リラックスして下さい。
 - 9, **注意事項**として1人入浴は絶対に、**厳禁**とします。(何方かに入浴の意思を表示のこと。)
 - 10, 入浴禁忌者、体調不良の方は、本装置でのお風呂は絶対に避けてください。
 - 11, 本入浴は、ご自身の**「自己責任」**で入浴されることが「原則」です。

⑫※1巡10工程30日間隔の繰り返し(※1巡7行程28日間隔⇒こちらは、体力のない方)となっておりませんが、あくまで「**厳格目安**」ですから、**其々ご自由にどうぞ**。

13, 本浴を無理して初日から舌下温度を39.3℃を求めるよりは、前段入浴日を介し身体に学習させた後、目的とする舌下温度にチャレンジするのが望ましいと思います。

※ 本入浴で初動時は、体温が上がらない方もいますが、回数を重ねれば、目的舌下体温(平熱以上及び39.3℃±)は達成できてくると思います。

※ 本装置活用の際し「**とくに、特に**」注意していただいたことは、「お風呂装置」ですから、「**雑菌発生**」の予防に万全を期してください。

⑭ 前述は、個別(家庭風呂)**「移動式」**対応型簡易浴用装置の説明です。

●過日、インターネットで「ガン」の治療および予防に対応する医療関係欄を拝読するとハイパーサーミア(温熱療法→医療行為)の記事が、強く印象に残り「**熱**」という現実に着しました。

その事から資格のない「小生」らに出来ることとしたら、「予防」という観点から「お風呂」で体温を上げる方法しかなく、本浴槽具を考案開発しました。

※ところが、

人間発熱を伴うと※「**温熱耐性**」(HSP70)が発現するとのことですから、「**同耐性**」の衰退する頃合いを参酌しての、**前記3~4日後**の据え置きの入浴を摂るべきが、健康を獲得する手法ではないかとの結論に達しました。

我々恒温動物は、温度感受性チャンネルが温度を感じる働きをしているそうです。

※【**体温センサー**】である「**TRPM2**」のメカニズムが解明されたとのこと、本装置がメカニズムの加担役の一部助長をみいだせればと願っています。

※高温反復入浴で体得した「**健康高熱体温発症の因果**」で、

悪性腫瘍が急速に死滅(崩壊)することがあるそうです。その名称は「腫瘍崩壊症候群」だそうだ。水分の補給などの「**予防策**」が大切だそうです。

お風呂に入って健康を獲得しましょう

※本装置は、医療器具ではないことを再度、申し添えます。

【6】 ① 温熱健康増進一般入浴法

国内特許取得（他国際・PCT 出願・数カ国；取得特許済み）

※ 予防医学端緒装置として活用したい

（本装置は浴用具で医療器具ではありません。）

※ 家庭等で 「※一般風呂」 として活用する場合

（一般の大・中；風呂含む）

本装置の機能

本装置の「特徴」は、特殊磁石で水を磁化し、磁化した水を曝気気泡化して「機能水」（生成水）を創ることにあります。



1型 ↑

（磁化水を曝気・気泡化した+、機能水を活用するお風呂です。）



2型 ↑

使用目的

（※先取り予防医学的な見地から）

※ 人体の体温を、入浴を介して健康的に一時上昇させることにより、

病現の阻止・体調の維持改善・低体温者の健康基礎体温（36℃台）を獲得

することにあります

実施方法として

1、「一般的」な入浴方法（大・中・小の雑居浴場・「家庭風呂」）

※浴槽湯温（適温℃～45℃以下）を好みにした「一般的な入浴方法」で、中核温（適温 38℃±⇒額から汗する程度）を一時上昇させ、予防医学を基盤に、病現の阻止・疲労回復・癒し・低体温者の健康基礎体温 36℃台を獲得目標とし、免疫力向上の端緒になれば幸いと希求した入浴手法です。

【6】② 活用方法・使用条件及び取り扱い説明書

(※本装置稼動時には、必ずアース線を取って下さい)

(※心臓ペースメーカー等使用の方・重篤病者の本浴は、医師に相談して下さい。)

本装置を利用するに際し、下記の事を遵守して下さい。

浴 槽 入 浴 心 得

(※家庭浴以外では、タオル、体温を計測される希望者は、自身で準備してください。)

※本入浴は、日常利用されることに意義があると考えます。

本入浴装置は浴槽入浴で、予防医学的見地から「病現の阻止・疲労回復・癒し・低体温者の低体温」を改善することを目標にしていることから、

- 1、まずは、浴槽に42℃前後のお湯を注入しながら、規定の湯量が溜まったら備え付けの、専用同装置(1型(2)  ②-イ)の利用法を厳守し機能水を造る。入浴時は、必ず本装置の電源は、「切」にし浴槽外で保管して下さい。(浴場主様)
- 2、検温希望者(舌下検温)は、入浴前30分間は、飲食を控えてください。
※(飲食等で正確な体温が求められないため。)
- 3、個別入浴者・一般入浴者・検温入浴希望者を問わず、必ず水分を補給(脱水症予防のため)して下さい。
- 4、その後は、ご自由に本浴をお楽しみ下さい。
※(3日~4日毎に1回は、額から汗する程度の温浴の実践は必要;但し無理は禁物)
- 5、時間の経過と共に、お湯の温度が降下することから、42℃前後の湯温を確保できるような対策を講じてください。(浴場主様)
- 6、入浴前に希望検温された方は、浴槽内で時々、舌下検温をして下さい。
※中核温の一時上昇を目的としておられる方は、原則(舌下温)39.3℃を目標に入浴を、楽しんでください;他腫瘍崩壊症候群の認識をも。
- 7、出浴後も、適量の水を補給し、且つ急激な身体冷却(ヒートショック・脱水症に起因する危険性)は避け、リラックス帯を設けてください。
- 8、入浴禁忌者、体調不良の方は、本浴は避けてください。
- 9、本浴を希望される方は、ご自身の自己責任で入浴して下さい。

お風呂に入って健康を獲得しましょう。

※本装置は、医療器具ではないことを再々度、申し添えます。

【 7 】 ※🔥温熱健康増進装置

下記は標記お風呂を介した時の予防医学的目標体温と食品等

(下記はあくまで参考資料です)

記

- 1) **糖尿病予防**⇒醸造酢と高野豆腐 ⇒ ;「舌下温度 38.5℃前後を目安」
※作り方→酢は醸造酢で飲用 25cc 程度、高野豆腐は 70℃前後のお湯で 30 秒程度煮炊きし、お湯を絞り 1 角を食する。豆乳適量・菊芋適量 < 1 日分
- 2) **痛風予防**⇒醸造酢と大豆とゴマ ⇒ ;「舌下温度 38.5℃前後を目安」
※作り方→醸造酢を飲用 15cc と、「EPA」;エイコサペンタエンサン→きな粉大さじ 1 杯とゴマ中さじ 1 杯を代用使用。低脂肪乳;適量 cc < 1 日分
- 3) **認知症予防**⇒醸造酢と大豆とゴマ ⇒ ;「舌下温度 38.5℃前後を目安」
※作り方→酢は醸造酢飲用 15cc 程度、きな粉大さじ杯、摺りごま中さじ 1 杯を食する。豆乳適量。 < 1 日分
- 4) **リウマチ予防**⇒醸造酢と牛乳及びハトムギ ⇒ ;「舌下温度 38.5℃前後を目安」
※作り方→酢は醸造酢 15cc 程度と牛乳 200cc をかき混ぜて飲用する。ハトムギは適量 < 1 日分
- 5) **腎臓予防**⇒炭酸水素ナトリウムとクエン酸 ⇒ ;「舌下温度 38.5℃前後を目安」
※作り方→食用炭酸 1g、クエン酸 1g に水 50cc を注ぎ一気に飲み干す。 < 1 日分
- 6) **がん予防**⇒①苦瓜・トマト（バナナ可）を代用、②ブロッコリー、③ハトムギ
④酢 ⇒ ;「舌下温度 39.3℃前後を目標」
(※ 1 案標記お風呂の湯温は、原則 1~3 日間は 41℃±、4 日目は 43℃±)
(※ 2 案標記お風呂の湯温は、原則 1~2 日間は 41℃±、3 日目は 43℃±)
※作り方→ゴウヤ（1 本）トマト 100g（バナナ 1 本特別可）をジューサーミキサーで搗り潰し飲用する。②ブロッコリー適量、③ハトムギ適量 ④醸造酢（酸度; 4 パーセント程度）25cc 程度を水で薄めて飲む < 1 日分
- 7) **クローン病・潰瘍性大腸炎予防**⇒竹を使用 ⇒ ;「舌下温度 38.5℃前後を目安」
※作り方→竹で手作り工作
〒884-0006 宮崎県児湯郡高鍋町大字上江 7 6 7 5 - 8
松井エネルギー研究所 TEL 0 9 8 3 - 2 2 - 5 8 0 5